

第4回地域課題解決の仕組みづくり会議会議録

日時：平成28年9月16日（月）16時30分～18時

場所：あしや市民活動センターリードあしや 会議室C

出席者：朝倉己作（（特活）芦屋市手をつなぐ育成会）宇佐見裕子（精道小学校 smile ねっと）金木友子（精中応援隊）小泉星児（芦屋市商工会青年部）三芳学（（社福）芦屋市社会福祉協議会）長城紀道（芦屋法律事務所）奈良雅美（（特活）あしやNPOセンター）

芦屋市企画部市民参画課山田課長 谷野係長 幾波課員

芦屋市立あしや市民活動センターリードあしや 橋野

1 ワークグループ提案

- ・円谷プロに協力打診中であるが、どこまでできるかは未知である。
- ・プロジェクトマッピングに関する予算は出ていないが、提案内容は否定されなかった。

2 あしや子ども笑顔ネットの役割

- ・アドバイス役であり、立ち上げ時のサポーター役である。
- ・今回の777プロジェクトに関しては、大枠を考える、様々な団体を見つけ繋ぐまでが役割である。
- ・芦屋市に最低望むことは、77周年事業として取り組むこと、市長に参加いただき、市庁舎を利用できることである。
- ・今回の目的は、子どもの居場所づくりである。

3 意見交換

- ・主催は実行会形式で行うのが妥当ではないか。
- ・事務局体制が重要になってくる。例：商工会、JC、NPO芦屋まつり協議会等
- ・芦屋市は現在の状況では関われないが、企画が整ってから協力の立場で関わることは可能であり、現在は政策推進課には伝えてある。
- ・1年度だけではなく、数年にわたり繋げていけるものであれば、市も協力体制を考えることができる。
- ・「子どもの居場所」を関わってくれた団体には、今後繋がっていく効果があり、市内の利用できる資源の橋渡しになる、
- ・団体の活性化に繋がる。芦屋市は様々な団体が集まってイベントをすることはなかった。
- ・予算は、市の補助、助成金、協賛金などから収入を得る。
- ・今回の目的、継続していく効果などを盛り込んだ企画書を作成しなければならない。

4 企画書内容

- ・目的を明確にする。テーマ
ウルトラマン「子ども見守り隊」を使って「子どもが元気になるまち」を創る。
①芦屋のまちの魅力再現 街並み 建物 商店等資源
②子どもたちの参加から郷土愛と親子の関わりを深める。
子どもに伝えたいものを明らかにする。
- ・継続性を明らかにする。
5年先の成果最終ゴールを見定め、1年、2年と年ごとの効果を掲げる。
例：1年目は企画に参加し楽しかった、喜べた、を実感してもらおう。子どもを支える大人（活動団体）を得られた。2年後以降は得られた人材がどう活動に結びつくのかを考える。
- ・団体が引き受けるメリットを含め企画書を持って、市民団体、企業に協力を求める。

5 今後の作業

- ・円谷プロにギャランティの確認をする。
- ・9月中に企画のプレゼンテーション資料を作成する。
- ・事務局は仮に商工会青年部が担う。

3 次回会議

平成28年10月11日（火）13時30分～15時30分 リードあしや会議室C

以上